

7 学年通信づくりを通して、児童生徒への指導を充実したい

【人や組織に対する思い、願い】

教職員同士で児童生徒にかかわる情報を共有し、互いの指導に役立てたい。

【行動モデルを活用するメリット】

学年主任としてどのような行動をとることが望ましいのかが見えてくる。

ステップ1 職員間で児童生徒にかかわる情報を共有し、指導に生かしたい

学年主任としての**仕事内容と行動モデルを関連**させて考えてみましょう。組織を活性化する**行動サイクル**（資料74頁 活用例5参照）を参考に、「共に考え行動する」「力をまとめる」の中から行動モデルを選び、必要に応じて修正しました。以下に選んだ例を示します。

また、この行動モデルをヒントに学年主任としての取組案を示します。

〔共に考え行動する〕

学年やクラスの隔たりなく、学校生活の中で気になる児童生徒の様子や、自分の指導の仕方とそれに対する児童生徒の反応について情報交換し、どうすればよりよい指導となるかを話し合っている。（資料22頁の1）

学年通信等で児童生徒・保護者・職員に生き生きとした児童生徒の姿を伝えている。（資料23頁の4）

〔力をまとめる〕

自分の失敗談を交えながら、指導上の配慮事項等にさりげなく触れている。（資料24頁の1）

ステップ2 学年・学級通信の記事ネタ集めや発行計画を立てましょう

ステップ1の行動モデル、を参考に、保護者との信頼関係を深めるために、学年や各学級が定期的に学年・学級通信を発行しましょう。学年会や職員室で学年内の児童生徒の様子について**記事ネタとなりそうな情報を交換**しましょう。同時に、**記事ネタ以外の児童生徒にかかわる情報**も出し合い、共通理解を深め、適切な指導の在り方を考えましょう。

学年、学級通信の目的や目的に沿った内容構成について相談し、双方がより効果的な通信となるよう、年間の発行スケジュールを確認しましょう。

ステップ3 計画的に児童生徒の状況と指導方法について相談しましょう

失敗談は、気持ちを明るくし、指導方法づくりの参考になります。



ステップ1の行動モデル、を参考に、学年会での協議や職員室での会話を通して、**指導の難しい児童生徒の具体的な指導方法を相談しながら**作り出すようにしましょう。その際、経験してきた失敗談も参考になります。一担任だけが責任を感じて指導するのではなく、**学年組織として指導**できるようにしましょう。児童生徒のちょっとした成長を学年内で喜び合える組織となります。

また、通信で児童生徒の成長を紹介することもできます。

A 中学校の学年通信から

「お母さん、ありがとうございました」

中学に入学して、体操着を買い揃える時に、成長を見越して大きめのズボンを買ってしまう傾向があるようです。でも、そのことでズボンの裾踏みが気になります。

そこで、生徒にはもちろん、前回の学年通信でも「衛生面のことや、体育の授業や学校生活での安全な活動のため、そして周りの人に不快な印象を与えない身だしなみのために、ズボンの裾上げをして下さい。」とお願いしてきました。

その後、きれいに裾上げがしてある生徒に声を掛けたところ、「2つある裾のうち1つはお母さんが上げてくれました。もう片方はお母さんに教えてもらいながら、自分で上げました。」と話してくれました。

日々の生活の中で、少しずつお子さんの自立を促す素晴らしいお母さんだと感じ、「一番身近な教師から最も大事なことを学べているな。」と感謝しています。